

# どうおう 見聞録

絵画や写真など芸術に打ち込む人にとって、作品を発表できるギャラリーの存在は大きい。それぞれの地域に根差して芸術活動を側面から支えたり、出品者と鑑賞者が触れ合

う交流の場であつたりもする。道央圏各地のギャラリーを訪ね、文化の発信や若手育成のキーパーソンとなっている主宰者の思いを紹介する。

## わがマチの芸術発信基地

Ⓐ

### ■せいてつギャラリー(室蘭) 心が和む10メートル廊下

室蘭市の製鉄記念室蘭病院(前田征洋院長)に新たに目見えしたのが「せいてつギャラリー」。病院に芸術を取り入れる「ホスピタル・アート(病院アート)」と呼ばれる取り組みで、患者や付き添い家族から「心が和む」と好評だ。

と中央診療棟を結ぶ長さ10メートルの廊下に開設。ギャラリーの近くにはカフェや図書館も新設した。同病院の山口秀一事務長は「白くて無機質な病院のイメージを少しでも変え、患者や家族の心を癒やすのが狙い」と説明する。

ギャラリーではこれまで、室蘭の工場夜景を集めた写真展や、花や鳥などを



病院内の廊下に設けられた「せいてつギャラリー」と山口秀一事務長

チョークで描いた絵画展を開催。8月末までは、がん患者による絵画展「がんと生きる、わたしの物語」が開かれており、入院患者らを勇気づけている。

ギャラリーへの出品は一般にも開放しているが、作品は患者や家族らの心を癒やす目的に合ったものに限定している。

(水野可菜)

△MEMV室蘭市知利別町  
1. 無休だが、一般開放は外来時間帯。同病院経営企画課 ☎ 0143・47・4404